

文部科学省高等教育局 学生・留学生課長 渡辺正実

先ほどご紹介いただきました、文科省高等教育局の学生・留学生課長の渡辺です。冒頭にご挨拶申し上げた吉田局長は私の上司にあたりまして、その吉田局長の挨拶文の原案というのは我々が作り、だいたいエッセンスはそちらに詰め込んだため、ほとんど話は尽きているのですが、私からは、若干、追加の説明をさせていただければと思います。今日は細かい資料を準備しておりますが、さらにそのエッセンスを準備しました。私は学生・留学生課長ということで、学生支援と留学生の両方担当しているわけですが、今回特に、何度か出てきております、就職活動の後ろ倒しということについては、たとえば、日本人学生が海外に留学をしていくということについて関係が深く、その意味では、その学生支援という立場、就職支援と留学という、ものすごく密接に関係している仕事を担当しています。

就職率については、もう既にご紹介がありました。全体の傾向として、リーマンショック以降、あるいは東日本大震災以降、若干持ち直した傾向がありますが、資料 2 ページ目に詳細なデータがついています。全体の傾向として、最近非常に良くなってきており、10月1日現在での就職率についても、この全体の就職率よりも改善傾向が良いということは、比較的大手の企業の就職、内々定の時期が、だいぶ早まっているのではないかとすることは見て取れると思います。学生について、日米を比べると、学習の時間が少ない、あるいは海外に打って出ようという日本人学生が少ない、もちろん中国やインドといった国々と比べると、国内での高等教育機関のレベルは、ずいぶん違っているのですが、日本人の学生、若い人は外に出ていく、チャレンジする力がないのではないかとすることも、データとしてはっきり表れているわけです。あるいは、そもそも日本の高等教育機関についても、この比較そのものについては、賛否両論いろいろあるのですが、全体としての順位が低いのではないかとという声もあり、大学を改革、強化していくことも、今国会でも議論されている、大学のガバナンス改革などもあるわけですが、総合的な立場で、大学における学生に対する支援時期について取り組んでいるわけです。

お願いということで申し上げたいのは、就職活動の後ろ倒しについて、十分に準備を進めていただきたいということなのですが、政府でも、国家公務員試験の日程の後ろ倒しも実際に決めました。もうすでに本年 2 月にはアナウンスしています。国家公務員では、総合

職の試験というのを起点に、一般職、そして地方公務員等に繋がっていくのですが、全体として、8月に合わせるような変更を行っています。特に大学の方々にお願いしたいのは、学生の就職支援は、大学の本来業務であるということ、就職というのは、大学の評価につながっていくのではないかという声もあるかもしれませんが、やはり出口について、きちんと面倒見ていただくというのは、ものすごく大事なことなのだと思います。こうしたなかで、私も最近になっていくつかの大学を訪問させていただきながら、来年の就職活動時期の後ろ倒しに向けて、特に前期試験の日程、あるいは大学院の試験の日程について、どのような議論が進んでいますかということのを伺うと、あまり準備をしてない、まだ進んでいませんという声を、特に国立大学側から伺っております。私立大学の準備のほうが進んでいるという話も伺っているのですが、この学事日程については確実にご議論いただいて、適切な形で見直しをお願いしたいと思います。それから、企業の方々にお願いなのですが、昨年11月にこのような形で、業界団体の方々に文書でお送りしたということでもあり、日本国内数百万社ある企業のなかで、日本経済団体連合会には採用選考に関する指針を改定していただいたわけですが、すべての企業の方々にご協力いただけるところまでは至っていないのだと思います。再来年の3月に卒業予定の来年の春に就職活動を開始される、今の3年生については、広報活動は3月1日から、採用選考活動が8月1日からということによって変わってまいります。

色々な方から話を伺うと、たとえば、これまで夏休みはインターンシップに対応していたのに、特に中小企業は人手が足りなくて、もうとてもそんなことやっていられないとか、あるいは昨年12月に文部科学省で、大学の方々に集まりいただいて学生の就職・採用活動時期の変更に関する説明会を開催した際に就職活動の後ろ倒しに反対する意見をおっしゃった方がいらっしゃったなど、そのような声があるのは重々承知していますが、就職・採用活動時期の後ろ倒しについては、大学側から最初に声が上がって、少なくとも3年生までは、きちんと学修時間を確保するというので、政府としての方針として決定をし、皆さんをお願いをしているわけです。もちろん困難なことは、当然あるのですが、困難だからとか、できない理由を考えるのは簡単なのですけれども、ただ、今我々が求められているのはそうではなく、いかにして、これを実施していくのかということだと思っています。そのような視点で我々も、内閣府、経済産業省、厚生労働省と連携しながら様々な形で一つ一つ問題点を潰していく努力をしています。

そのようなことで、また別途、ご協力をお願いしなければならないのですが、就職問題

懇談会とも連携して、各大学に対してもアンケート調査をお願いしようと思っています。それから企業の方にも、数はたぶん限られるのですが、アンケートをさせていただいて、今抱えている問題を、もう一度きちんと洗い直しをして、それに対する対策を考え、きちんと対応していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。近日中にはそのご依頼が行きますので、企業の方はそのようなアンケートが参りましたら、ご協力をよろしく願いいたします。

留学生は、派遣と受入と両方ありますが、文部科学省では最近、派遣において、「トビタテ！留学 JAPAN」ということで紹介をしておりますし、そのようなことも含めて、留学生が帰国したあとに、日本の企業にもきちんと就職できるというメッセージを出す上でも、この後ろ倒しというのはものすごく大事なことだと思っています。あるいは、日本にいる留学生の方々に対する就職の支援ということについて、日本の労働力が、特定の分野あるいは全般としても不足してきているということは、すでにご案内の通りでありますけれども、受け入れた留学生が、日本の企業、あるいは日本に関係する企業で、ぜひとも働いていただけるような取組についても、今政府で具体案を考えているところですので、また固まりましたら様々な形で皆様にご協力をお願いすることになると思います。様々な障害はあると思うのですが、我々としてはやはり、大学生に対して、きちんと勉強してもらう、大学で学んで貰うということを優先した結果として、このような方針を取っていますので、ぜひともご協力をお願いしたいと思います。私からの説明は以上です。ありがとうございました。